

第74回火山噴火予知連絡会

全国の火山活動(平成8年10月~平成9年1月)

1. 主な火山活動

- ・雌阿寒岳:平成8年11月21日17時55分、雌阿寒岳でやや振幅の大きな地震(M:2.2)が発生し、引き続き火山性微動が約8分間観測された。この現象は、1988年以来8年ぶりに発生した雌阿寒岳の小規模な水蒸気爆発であった。ポンマチネシリ第1火口西側に新たな火口が形成され、また、第3および第4火口の一部からも火山灰の噴出があった。この噴火で極少量の降灰が、北西山麓と北方約50kmの範囲で認められた。また、火口周辺の雪面には噴出岩塊の落下跡が観察された。この噴火に先立ち、5月~8月にポンマチネシリ第4火口で噴気温度の上昇が観測され、また、8月下旬からは地震活動の断続的な増加が見られていた。

噴火直後活発であった噴煙活動は、第3および第4火口で急速に弱まり、第1火口西側の新火口を中心に活発に続いた。遠望観測などによると、24日までは噴煙量が多く、噴煙高度も一時1,000mに達したが、その後は100~400mで推移している。また、12月31日には一時的に1,000mに達している。噴火に伴い微小な地震活動が一時的に増加したが、数時間後には噴火前より低いレベルになり、その後の変動もわずかである。

- ・北海道駒ヶ岳:平成8年3月5日の噴火以降、地震回数は月回数で数回以下と少ない状態が続いている。北大の精密観測では、10月24日に引き続き、12月26日に短時間継続する微小な群発地震がみられた。遠望観測では、噴煙高度は100~300mで、噴煙量も少量で推移している。昭和4年火口内の新火口は湯沼となっている。

北大による地殻変動観測では、11月の辺長測量で、噴火後の収縮は少なく、一部の測線で収縮から伸びへの反転がみられた。11月の水準測量では、噴火後8月までの山下がりの傾向から、山上がりの傾向への反転が観測された。これらの力源は浅いとみられるので、マグマの圧力を直接反映した現象ではなく、熱水系と関係した現象かもしれない。

- ・伊豆東部火山群:10月15日から地震活動が活発化し、11月5日には活動は一段落した。この間の伊東市鎌田における総地震回数は5,978回になった(最大地震はM:4.1)。この地震活動に伴い東伊豆の体積歪計に縮みの変化、伊東の傾斜計に東南東下がりの、徳永の傾斜計には南西下がりの変化、GPS観測では伊東市を中心とした地域に最大2cm程度の伸び、水準測量では伊東市内で3cm程度の隆起がそれぞれ観測された。

- ・九重山:この期間を通じて前回に引き続き活動が続いており、今年になって1月9日から11日にかけて星生山の北西3~5kmの付近を震源とする地震が多発し、1月10日には日回数が1,262回となった。また、振幅の小さい火山性微動が11月28日から12月2日にかけて集中して観測され、特に11月28日は日回数が10回と多発した。その他には12月28日に1回観測されたのみである。この期間、噴煙高度は概ね100~400mで推移したが、時々600mの噴煙高度が観測され、一時最高700mが観測された。

2. 北海道地方の火山

- ・樽前山:平成6年末頃から、地震活動に従来と違うわずかな変動が見られるようになってきている。今年

になっても、1月15日には日地震回数が77回と短時間に多発した。遠望観測によると、噴煙等に異常はみられなかった。

- ・十 勝 岳：1月18日に数分間の極微小な火山性微動を観測した。
- ・有 珠 山：特に変化なし。

3. 東北地方の火山

- ・岩 手 山：振幅の小さな火山性微動及び低周波地震が、10月に3回、11月に1回、12月に2回、1月に2回、合計8回観測された。山体直下を震源とする微小な地震が10月、11月に観測された。
- ・八 幡 平：12月21日から22日にかけて、山頂の南約6km付近で、微小な地震が群発した。
- ・吾 妻 山：10月、12月、1月に、一切経山直下の浅部を震源とする微小な地震が観測された。
- ・安 達 太 良 山：10月3日と19日に、山体直下の浅いところを震源とする微小な地震が観測された。10月沼の平で9月とは別の場所から泥の噴出があったのが確認された。
- ・磐 梯 山：特に変化なし。

4. 関東・中部地方・伊豆諸島の火山

- ・浅 間 山：昨年5月以降地震が時々多発する状態が続いている。11月10日には日地震回数が216回と多発した。噴煙もやや多い状態が続いている。
- ・御 嶽 山：特に変化なし。山体南東の約10km付近では地震活動が続いており、10月23日には日回数が121回と多発した。
- ・伊豆大島・三宅島：地震回数や表面現象に特に変化はないが、地殻変動観測によると島の膨脹現象が継続して観測されている。
- ・新 島・神 津 島：利島付近で1月19日から地震が群発している。一方、新島、神津島付近の地震活動は、10月23日から27日にかけてと11月2日、17日に地震活動が活発化した（最大地震はM：4.5）が、12月半ば以来やや低下している。
- ・富 士 山：12月22日と1月14日に低周波地震がやや多く観測された。
- ・那須岳・草津白根山：特に変化なし。

5. 九州地方の火山

- ・鶴 見 岳：12月に山体の西側で一時的に地震活動があった。
- ・雲 仙 岳：落ち着いた状態が続いている。
- ・阿 蘇 山：火口底は全面湯溜りの状態が続き、孤立型微動がやや多い状態が続いている。
- ・桜 島：爆発が10月2回、11月9回、12月に3回、1月には1回発生した。
- ・霧 島 山：特に変化なし。

6. 南方諸島・南西諸島の火山及び海底火山

- ・口 永 良 部 島：昨年1月からの地震活動が継続している。今年になって1月21日から24日にかけて地震が多発した。
- ・薩 摩 硫 黄 島：昨年10月の観測で硫黄岳山頂部に新たな割れ目ができ、新噴気孔列の生成が確認された。1月にはその割れ目の拡大と、さらに新しい割れ目が確認された。また、10月から1月の間に大鉢北部のクリータが噴出したと見られる土砂が南西部に30～50cmの厚さで堆積しているのが確認された。
- ・諏 訪 之 瀬 島：噴火活動を継続中。
- ・福 徳 岡 ノ 場：10月、12月、1月に航空機により変色水を観測した。